

ロス対策士の皆さん

ロス対策士コミュニティのお知らせ

フェイスブックに「ロス対策士コミュニティ」を設けました。フェイスブックのアカウントをお持ちの方は、是非ご参加ください。

<https://www.facebook.com/groups/919653045344673>

お薦めは「万引き保安員の記録～一万円札の重み～命の約束」です。是非お読みください。

「ロス対策士」寺嶋良祐さんの書いたものです。

特定非営利活動法人全国万引犯罪防止機構

L P 教育制度作成委員会

警備新報 4 月 25 日号には警視庁碑文谷敬警察署の万引き防止責任者養成講座が 1 頁に掲載されております。

<https://www.jeas.gr.jp/news.html>

立命館大学地域情報研究所第 11 号に「スーパー声掛け調査」に関する論文が掲載されています。「万引き防止活動「声かけ」の研修がスーパーマーケット店員の万引き防止行動や意識に及ぼす 効果—正社員とパート・アルバイトの比較—」（皿谷 陽子，平 伸二，仲 真紀子）万引防止の声かけ研修を受講する前と受講後の比較検討をしたものです。

http://www.ritsumeit.ac.jp/research/rdiri/journals/kiyou_11/

集団窃盗対策は立場の異なる複数の組織の協力が欠かせない

ORC（組織化された小売犯罪＝集団窃盗など）との戦いは小売業界にとって深刻な問題である。またこれまで以上に戦略的かつ他者との協力も必要だ。これは小売企業各社の成長と収益確保にとって欠かすことができない。この問題は既に現実化しているが、従来の万引窃盗とは対照的に、不正や犯罪の手口も高度化している。Eコマースでの盗品販売、フィッシングの試み、クレジットカードやギフトカードの不正利用といった詐欺行為は、ロス対策担当者を悩ませる問題であることは間違いない。

これらの問題との闘いは、小売企業や警察当局などと共同利用できる複数のツールを使用することで、予防かつその対策になる。予測データ分析と詳細なレポートをサポートする防犯カメラを使った動画録画機能により、調査者はこれまで以上に多くのケースを蓄積し活用できる。従来の監視方法や狙われることの多い製品に対する監視追跡は、引き続き重要な現場の対策ではあるが、盗まれた商品の換金（販売）は、オンラインを悪用することで、もはや地理的な条件はなくなっており、Eコマース企業や中古品の再販業者との協力関係

の構築も重要である。(万防機構はヤフー、メルカリとの共同の取り組みを行っている。)

警察などの法執行機関との協力関係は、調査を成功させるためのもうひとつの重要な要素である。各州の小売業協会とそれぞれの警察当局とのパートナーによってサポートされている全米に30以上の州や市にあるORCA(Organized Retail Crime Association)グループとの関係が強化されている。ソフトウェア会社はまた、データ共有と協働プラットフォーム上の情報へのアクセスの提供を通じて、これらの関係を促進するのに役立っている。

<https://outlook.office.com/mail/inbox/id/AAMkADEyZjlkNjhmLTIONWmtNDQxYS1iN2E1LTI3MTUONWZkNzR1YQBGAIAAAAs09Y6CgjoTKWuTkKZnaZJBwBBbYXHdpBxQIAWYXBI9MU1AAAAEMAABBbYXHdpBxQIAWYXBI9MU1AAReo6FSAAA%3D>

[万引き保安員の記録]

~一万円札の重み~命の約束

化粧品を万引きした派手な出で立ちの15~17歳の女の子2人組を捕まえた時の話です。

警備室にて、2人と話をするのですが大人を嘗めた様子で全く話になりません。

言葉遣いも乱暴で反省する素振りすらみられないのです。

その様子に呆れ返る店舗責任者と警備室の職員達。

この時、僕はこの子達の「説諭」は難しいと感じました。

個々に万引きをした理由を聞いていくのですが…やはり、大人を嘗めた態度は変わらず、まともに話をすることも出来ません。

ただ、根気強く対話を重ねていくうちに2人のうちの一人、仮にAさんとしましょう。

本心、動機に繋がる話を聞くことが出来ました。

彼女の家は母子家庭で父親が居ません。

母親は子供達の為に仕事を掛け持ちして朝から深夜まで一生懸命働いていました。

彼女の下には兄弟(姉妹)、幼い子供がいました。

彼女はその兄弟(姉妹)の一番上、お姉さんです。

彼女は学校が終わるとそのまま保育園へ向かい、兄弟(姉妹)を迎えに行きます。

そして、家に連れて帰り母親に代わり面倒を見ているそうです。

母親が作り置きした夕食を温めたり、洗濯物を集めて畳んだり、母親が帰宅する深夜まで兄弟(姉妹)のお世話をします。

そう、彼女には学校が終わってから…お姉さんとしての“仕事”があったのです。

赤ちゃんに関しては母親の勤め先の預かり所をお願いしているようでしたが…彼女は兄弟(姉妹)の子守りに関して不満がありました。

「私だって、放課後に友達と遊びたいのに！！何で私だけ！！最悪！！」

彼女は決して兄弟(姉妹)が嫌いだからということではないと言います。

ただ、毎日毎日…友達からの誘いを断って、兄弟(姉妹)を迎えに行かなくてはならない現状に彼女なりに切実な想いがあったのです。

私は彼女のその想いは否定せず、受け取ることにしました。

「君はすごくよく頑張っている」

その言葉に彼女の口調が少し穏やかになりました。

「毎日じゃなくてもいい、たまには友達と思いきり遊びたい」

彼女の本音がそこにありました。

そうこうしているうちに通報していた警察官が到着。

警察官が到着し、再びふてぶてしい態度に戻る少女達。

「反省しているのか！！」

警察官の一喝にも物怖じせず、相変わらずの態度でした。

2人は初犯ということもあり、警察官の方針では保護者引き渡しで処理を完結させたいとの事でした。

しかし、2人に全く反省がみられないことから、店舗責任者は被害届けの提出を考えていました。

ただ、彼女達の将来を考えて…店舗責任者は「商品の弁済」を条件に被害届けは提出しない方向で処理を進めることにしました。

しばらくすると警察官が連絡していた2人のうち、一人の親御さんが迎えにきました。

店舗責任者に謝罪した後、商品の弁済をして一人目はそのまま処理が完結します。

その後、遅れてもう一人の女の子…Aさんの母親が到着しました。

胸元の抱っこ紐の中には赤ちゃんが眠っています。

事務所に入り、店舗責任者と警察官に何度も頭を下げて謝罪しました。

そして…「どういうこと!!」とAさんを睨み付けます。

その言葉に対してAさんは怒り表情で応え、黙ったままお互い睨み合います。

膠着状態の中、警察官が場を制して母親に声をかけます。

万引きの内容と被害届けについて、店舗責任者との取り決めである「商品の弁済」についての説明をしました。

説明が終わり、母親が弁済をするために財布を取り出します。

店舗責任者から盗品である化粧品と被害金額についての説明を受けると…母親の表情が一変しました。

「こんなに盗ったのですか！！」

母親の顔が青くなります。

「被害金額は8千〇〇円になります」

店舗責任者の言葉に母親は頭を押さえて何やら考え込みます。

「どうかされましたか？」

警察官が母親に聞きます。

「……いえ、何でもありません」

母親は青い顔のまま、財布から一万円札を取り出しました。

店舗責任者から商品の精算を依頼された僕は母親から一万円札を受け取る為にお札を掴みます。

「お預かりします」

お札を引き抜こうと引っ張ります。

「??？」

しかし、お札が重く…微動だにしません。

「あれ？」

もう一度、ぐっ…とお札を引き抜こうとするのですがお札が全く動かないのです。

「〇〇(母親)さん？」

僕が母親を見ると…親指に力を込めてカタカタと震えながらお札を掴んでいる母親が目の前にいました。

強い力を込めているせいでお札の掴んでいる部分がくちやくちやです。

「ごめんなさい…商品の弁済だけは勘弁してもらえませんか？」

母親が私の目をじっ…と見つめます。

「このお金は家族の命なんです」

すがるような目で私にお願いしてきます。

「バカだと思われるかもしれませんが…この 8000 円がないと今月を生き抜くことができせん…どうかお願いします」

母親は僕に何度も何度も頭を下げます。

そんな母親の表情に強い「悲しみ」と「苦悩」が滲みしました。

僕は店舗責任者の顔を見ました。

しかし、店舗責任者は首を横に振ります。

「被害届を出さない条件です」

警察官から再度、母親に向けて言葉がかけられました。

しかし、母親は微動だにせず…私の目を真っ直ぐ見て引きません。

「貴方をお願いします…どうかお願いします」

母親の目には涙が溜まっています。

僕は母親の迫力に気圧され、自分がどうするべきか分からなくなりました。

そんな時、彼女が僕に言いました。

「もういいじゃん！！まだ開けてもいないし…お店に戻せばいいだけじゃん！！」

振り向くと、彼女が立っています。

彼女の表情にも母親と同じく強い「苦悩」が滲んでいました。

その表情をみたとき、僕は自分がやるべきことが何か…分かったような気がしました。

「このお金は受け取れません」

僕は一万円札から手を離しました。

母親が驚いた表情を浮かべます。

僕は振り返り彼女に言いました。

「Aさん、君からお母さんをお願いしてほしい」

「はぁ!!」とあからさまに嫌そうな表情を浮かべる彼女…そんな彼女に自分の口でお願いするようにと話しました。

そして、母親に対して向き直ると僕は母親に言いました。

「このお金はあの子が”けじめ”をつけるのためには必要なお金です」

「意味が分からない!!」と後ろで悪態をつく彼女に再度、言います。

「Aさん、この一万円札はただのお金じゃないよ…これは、お母さんの命なんだよ」

彼女が訝しげな表情を浮かべます。

これは先ほどお母さんが僕に言っていた言葉でした。

「このお金はお母さんが君たち家族の為に自分の身を削って削ってようやく手に入れたものです」

そんなものを僕がおいそれと受け取る訳にはいかない…彼女に向かってそう言いました。

「これはお母さんの命そのものです」

僕の真剣な表情と言葉に彼女の表情が”真顔”になりました。

「だから、自分の口でお願いしなさい」

その言葉でようやく彼女が母親の前に立ちます。

「お金…払って下さい」

母親が彼女をじっ…と見つめます。

しかし、首を縦に振りません。

彼女の表情に再び「苦悩」が表れます。

「ねえ…何て言えばいいの？私には分からない」

彼女が振り返り僕に助けを求めます。

僕は自分で考えなさいとした上で…彼女に言いました。

「今の君ができることは何ですか？」

彼女は目を瞑り、しばらく考えます。

そして再度、彼女は母親と向き合いました。

「ごめんなさい、二度と万引きはしません…約束します。だから、お金払って下さい、お願いします」

彼女の表情に「悲しみ」が表れました。

彼女の真剣な言葉に…ようやく母親が頷きました。

「二度と万引きをしない!!それが条件だからね!!」

母親が彼女をみつめます。

彼女は「悲しみ」表情を浮かべながらしっかりと頷きました。

そして、母親の親指が緩み、僕の手に一万円札が渡りました。

たかが、8000円。

しかし、この 8000 円…母親の持っていた一万円札はただの一万円札ではありません。

このお金には母親の命、魂が宿っていました。

僕はあんなに重い一万円札があることを恥ずかしながらこの時まで知りませんでした。

僕は彼女の「苦悩」を観たとき、母親と同じ痛みを感じていること…自分のしたことの代償がいかなるものかを身を持って感じることでできるチャンスだと思いました。

そのためには母親の命…あの 1 万円札(8000 円)がどうしても必要でした。

家族が生き抜くための 8000 円を母親から奪い取ることがこの家族にとっての最良だったのか否か…賛否両論分かれると思います。

ただ、このお金を商品の弁済ではなく、彼女が自分自身と母親との約束としての対価(証明)、彼女の未来に向けた“投資”というかたちにすることで彼女にも母親にも価値のある 8000 円になるのではないかと僕は考えました。

母親は自らの姿で示してくれました。

彼女の為に…正に“命”を掛けて彼女のこれからの投資してくれたのです。

この表現は決して大袈裟ではありません。

母親一人、身を削る思いで、自分の人生を掛けて子供達の為に命を紡いでいるのです。

家計が本当に本当に苦しい中…彼女の為に使った 8000 円は母親の彼女に対する何よりの“愛情の証”でもありました。

彼女はきっと母親との“命の約束”を守ってくれると思います。

僕は彼女に言いました。

家族は助け合うことができる。

ただ、無理はしてはいけない。

友達との交流も大切だということ。

お母さんはきっと分かってくれる。

お母さんにちゃんと自分の想い、気持ちを伝えればいいのだと。

この体験は僕自身が A さんの母親から教えられ、学ぶことでできた想いで深い出来事でもありました。

お金の本当の価値とは、お札に書いてある数字ではありません。

自分の命という時間を削って、自分や大切な人の為に掛けた時間という対価、想いなのです。

彼女はきっとこの 8000 円…一万円札の“重み”を生涯忘れることはないでしょう。